

重要文化財

大神山神社奥宮



〒689-3318 鳥取県西伯郡大山町大山1番地 TEL0859-52-2507

大神山神社奥宮の概要

伯耆大山は、天平五年（733）に成立した『出雲国風土記』に火神岳（大神岳）^{ほのかみのたけ}として見え、平安時代の『続日本後記』や『日本文徳天皇実録』、『日本三代実録』に「伯耆国大山神」と記録されていることから、大山が古代から神の宿る山として信仰されてきたことがうかがえる。

寺伝によれば、大山の山腹に金蓮上人^{きんれんしょうにん}によって寺が建てられたのは、養老二年（718）のこととされる。承安二年（1172）の銘が残る『鉄製厨子』には、中門院^{ちゅうもんいん}、南光院^{なんこういん}、西明院^{さいみょういん}の三院の名がみえ、12世紀までには寺院集団が成立していることが分かる。建暦三年（1213）の『慈円所領譲状案』に「大山寺」とあり、天福二年（1234）の『僧正慈源所領注文』にも「大山寺」とあることから遅くとも13世紀前半には三院の総称として「大山寺」と呼ばれていたことが分かる。またいずれにも比叡山無動寺領とあり、天台宗寺院であったことがうかがえる。各院は大日如来、釈迦如来、阿弥陀如来を信仰し、三院の中心理念として地蔵菩薩が祀られた。大山寺は、地蔵菩薩と大山古来の神が習合した大智明権現^{だいちみょうこんげん}を祀る社を本社とし、それが現在の大神山神社奥宮である。

大山寺が、寺と神社に分かれるようになったのは、明治8年（1875）の神仏分離政策に伴う大山寺号の廃絶によるもので、この時に大山寺本社は大神山神社奥宮へと名称が変えられることになった。明治36年（1903）には大山寺号の復興が認められたが、大智明権現社（奥宮）と下山社（下山神社）^{しもやまじや}が神社名義のまま残ることになり、現在に至っている。

大神山神社奥宮は、寛政八年（1796）に火災で焼失し、文化二年（1805）に京都の大工、三輪平太と川勝作兵衛らによって社殿再建がなされた。壮大な権現造で、拝殿・本殿2棟の建造物を幣殿で結び、拝殿の両側に長い翼廊をつける。屋根は、柿葺、入母屋造である。また、拝殿は壮大な唐破風をつけ、柱間は3つあり、中央入口の柱間は内側より広く、柱は円柱で50cm近くある。幣殿内の格天井には美しく彩色された234枚もの花鳥人物が描かれており、豪華を極めている。



大神山神社石の大鳥居（国登録有形文化財）



大神山神社奥宮



八角神輿



● 神輿の文字記録

奉寄進

御神輿

施主 日野郡中

本願

東陽院法印靈歛

緒方三良右衛門政胤

伏願

郡中安全
五穀豊饒

本庄屋

緒形四郎三郎□親

西古甚左衛門延全

手嶋伊兵衛知義

同先役

梅林忠兵衛榮□

取立庄屋 黒坂邑

世話人

甚兵衛重□
重兵衛唯□

同 根雨宿



奥宮幣殿



斗拱



飛天

楽器を持ち、音楽を奏でている様子を表現している。



木鼻

象がモチーフとして使われている。



もひとり神事（県指定）

「弥山禅定」の一部が「もひとり神事」として、大神山神社奥宮に受け継がれている。毎年7月14日から15日にかけて、大山山頂に登り、霊水と薬草を持ち帰る神事が行われている。



下山神社

現社殿は、文化二年（1805）津和野藩主亀井矩賢^{のりかた}により寄進造営されたもので、ところどころに亀井の家紋「四目結」をみることができる。柿葺の権現造で八棟造とも呼ばれる。



石狐



四目結



棟札



大神山神社奥宮神門

西楽院の表門として、安政四年（1857）に日野町根雨の近藤平右衛門、喜八郎によって寄進されたもの。柿葺で唐破風を付けた四脚門である。



銅製明神鳥居

天明二年（1782）戒光院實弘の発願により建てられた鳥居で、博労座付近にあったものを昭和37年に現在の場所へ移転したものである。



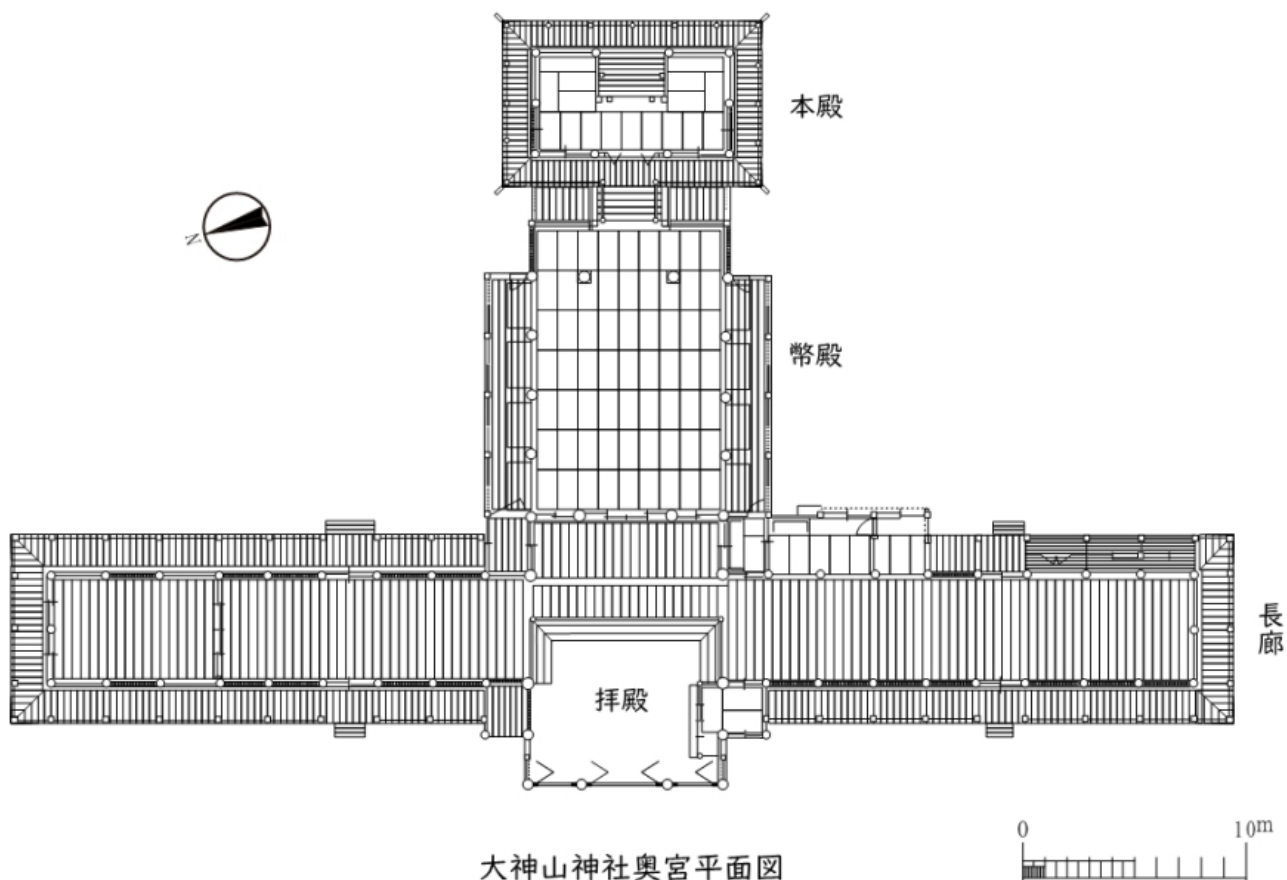
石畳道

昭和初期に自然石を使って造られた道である。



石造明神鳥居

文政三年（1820）に林原定富貞や成就院豪秀の発願で建てられた鳥居である。



指定物件

名 称	員数	時 代	年 号	構 造 及 び 形 式
大神山神社奥宮 (国)	2 棟	江戸時代後期	文化二年 (1805年)	本殿（桁行三間、梁間二間） 幣殿・拝殿（桁行八間、梁間三間） 権現造、柿葺
下山神社本殿・ 幣殿・拝殿 (国)	2 棟 (附指定)	江戸時代後期	文化二年 (1805年)	本殿（桁行三間、梁間二間） 幣殿・拝殿（桁行五間、梁間三間） 権現造（八棟造）、柿葺 棟札一枚（津和野藩主亀井矩賢寄進）
石造明神鳥居 (国)	1 基 (附指定)	江戸時代後期	文政三年 (1820年)	幅7.9m、高さ6.2m
銅製明神鳥居 (国)	1 基 (附指定)	江戸時代中期	天明二年 (1782年)	幅8.1m、高さ6.4m
大神山神社石の 大鳥居 (国登録)	1 基	江戸時代後期	嘉永七年 (1854年)	石造、幅12m、高さ8.5m
大神山神社奥宮 神門 (県)	1 基	江戸時代後期	安政四年 (1857年)	四脚門（桁行一間、梁間一間） 柿葺、唐破風
大神山神社奥宮 八角神輿 (町)	1 基	江戸時代後期	文化十一年頃 (1814年)	八角造 大智明権現像一軀（西尾文朝、正蔵作）